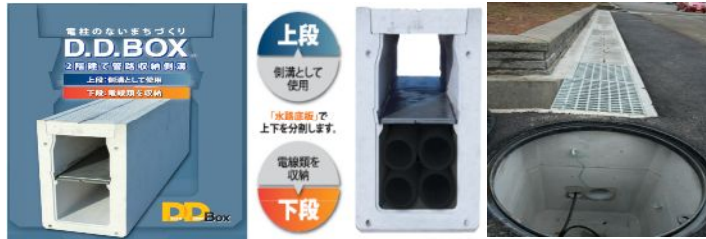


【電線類地中化最新技術】D.D. BOX 試験施工について

2012年11月、「D.D. BOX」を初めて施工しました。D.D. BOXは、道路側溝を上下に仕切り、上段を側溝として、下段を電線類収納スペースとして使用するもので、NPOの助言をうけながら開発されたものです。

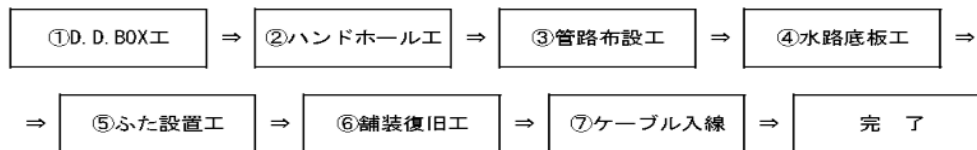


今回の施工場所は、同社工場敷地内(岡山県瀬戸内市長船町)で、隣接する地元自治会敷地への配電線の地中化区間、約56mのうち36mにD.D. BOXを使用しました。施工期間は2012年11月中旬～12月上旬で、実働15日でした。

D.D. BOX以外の部材(ハンドホール、管材)はNPO会員会社様が販売されているものを使用、既存部材へのD.D. BOXの適合性の確認もあわせておこないました。施工は通信土木関係の施工会社様が担当、ほぼ当初想定されていた工程どおりに完了しました。

D.D. BOXの施工は道路側溝の据付とほぼ同じ要領ですが、D.D. BOX特有の施工手順である水路底板工についても、施工者や見学者がおどろくほど迅速に施工が完了しました。また、ハンドホールとの取合い部の施工や、管路布設工も、ほぼ想定されたとおりに完了、良好な施工性が確認されました。

<施工工程>



今後は、NPO会員様の協力のもと、不断の改良・改善を実施し、官公庁をはじめ広く一般に使用される製品に育つよう、周知活動を展開していこうと考えています。



文貴 NPO法人会員
(株)イーヨーギョー 技術開発部
井上了介

日本の電柱・電線の現状について感じられていることをエッセイとして綴りお送り下さい。本会報の【随想】欄に掲載させていただきます。1000～1500文字、簡単な自己紹介(お仕事、住所等)と顔写真を添えて下さい。投稿をお待ちしています！事務局 井上 info@nponpc.net

「美空」に載せてほしい事、調べてほしい事などがありましたら、info@nponpc.net までお送り下さい！会員の皆様のご意見、お待ちしております！

美空～MISORA～

第55号

発行日:2013年03月25日(月)

発行者:NPO 法人電線のない街づくり支援ネットワーク
理事長 高田 昇

《活動報告》2013年02月26日理事会(COM計画研究所)

- ◆技術開発委員会:森理事欠席のため、報告なし
- ◆世論形成委員会 ◆荒閑理事・長谷川副理事長

ネットワークを構築するために、地域づくり団体の資料を参考に絞込みを行うが絞込みが出来ませんでした。ネットワーク構築の為の第一歩として、活動範囲を近畿2府4県に絞って世論形成委員会で骨太方針を作成していき、目標として、4月末までにある程度の賛同グループを確保し、5月下旬に開催予定の大阪セミナーに集合してもらい意見交換会をする。そのセミナーで講師として、自民党所属の政治家である小池百合子氏を招きたいと考えている。或いは、電線類地中化の現場に携わった人(施工業者、その地域の人など)に話を伺いたい。



- ◆事業協力委員会 ◆高田理事長・井上事務局長

2月22日に福知山市で行われた勉強会は非常に盛り上がった。写真のシミュレーションを使ってビフォーアフターを行ったのが良かったと考えられる。この勉強会をきっかけに、市と商店街が協力して、この地域で電線類地中化をするという方針になり、「広小路通り電線類地中化検討委員会」を立ち上げることができた。8月中には方針を固めていきたい。

- ◆東京活動委員会 ◆井上事務局長

2月19日の東京セミナーは、NPO 日本景観フォーラムと共催だった。しかし、集客したのは当NPOがほとんどだったので、約4万円の収益を人数配分することで承頂いた。五十嵐太郎先生の講演内容は、「良い景観とは？」という切り口で、単に電柱を無くす、無くさないというだけで景観向上に繋がるのではなく、様々な要素や歴史などが重層的に重なって作り出すものだ。また、電柱を和風にして、街灯を提灯に変えるなどの遊び心があっても面白いという提案もあった。

- ◆3月度理事会の日程

次回理事会は3月27日18時予定。場所はCOM計画研究所。

NPO 法人電線のない街づくり支援ネットワーク事務局 (株)ジオリズム内 担当:井上

Mail: drj6616@live.jp <http://www.georhizome.xsrv.jp/> Tel:072-653-5811 Fax: 072-653-5833

【報告】第3回東京セミナー 《アートが景観を発見する》

2月19日、大和ハウス工業株式会社東京支社の大講堂においてNPO 法人日本景観フォーラムとの共催によるセミナーを開催しました。今回の講師は東北大学大学院の五十嵐太郎教授で、『アートが景観を発見する』というテーマで、約130人が参加された。

五十嵐教授は専門の建築史の他に絵画、アニメ、映画といった分野の幅広い知識を持っておられ、今回はアートという面から見た建物そして景観についてお話し頂きました。以下、講演内容の要旨を報告します。

1. 美しいのか？醜いのか？

建築の予備知識がない新入学生に美しい建築と醜い建築の写真に撮らせたなら学生が感じる美しいか醜いかは古いか新しいかであることが分かった。しかし、専門教育は洗脳であり4年後にはかなり違った判断をするようになる。また「これが悪い、あれがダメ」と言う事ではなく、「こういうところは良くて、こういうところは悪い」という評価をするようになる。

イタリアの小説家、哲学者であるウンベルト・エコー(1932.1.5 生)は著書『美の歴史』の中で『美しい』とは、我々が好む物を指し示すのに良く使う形容詞である。近代に定められた美とアートの密接な関係は我々が考える程明白なものではない。」と述べている。

近世の評価では最も美しい建築物はパルテノン宮殿であるが、ル・コルビジエは「最新の車が現代のパルテノン神殿である」と論じている。

醜い建築物として解体の危機にあった菊竹訓氏設計の都城市民会館は日本の建築が世界を追い越した60年代の優れた建築の一つであり、残すべきと考えていた。この建物について地元出身の現代美術家高嶺格氏は「この建物を見たときに何故こんな形をしているのか、皆疑問に思う。子供すらそう思う。だから良いのだ。何か考えるきっかけになる物として必要である。」と主張し、結果的に地元大学の施設として残った。



都城市民会館

2. 看板と電線と電柱と

電線・電柱については無くなった方がよい場所はあるが、機械的に全ての電線さえ無くせばそれで良いとは思っていないのが自分の立場である。建築家としては電線を地中化するのであれば個別の建物のことも考えて欲しい。地中化すると建物の醜さが余計目立つのではないか。結局は建物がきちんとしているかどうかの問題となる。

電線・電柱が街のアートを作っているような場所もある。映画監督、アニメ作家の庵野秀明は醜いといわれる電線を題材に作品を作っている。我々は「電柱を無くすか残すかの論議になりがちだが、アーティスト山口晃は日本の景観に合うものとして和風の建物や鳥居をあしらった電柱を提案しており、これを見ると我々がやりがちな二項対立とは違う発想である。

アメリカのポストモダン建築家ロバート・ヴェンチュリーは日光霧降ホテルの吹抜けに電柱や袖看板を模したオブジェを並べ、電柱こそ日本のオーダー(古典主義建築の基本単位となる円柱と梁の構成方法)であると主張している。



山口晃作：電柱



ヴェンチュリー作：
日光霧降ホテル吹抜け

3. 景観の想像力

- ①ビルの屋上に屋根を付け、屋上の醜い設置物を隠すという小泉内閣時代の政府専門チームの見解。
- ②雪が醜い物を隠し、アートを作る景色。
- ③中国採石場の、ペンキによる緑化。
- ④ピョンヤン中央広場の、周りの建物までもがシンメトリックな景色(渋谷の雑踏との比較)。
- ⑤東京の、ホームレスを排除するオブジェ。
- ⑥日本橋と首都高速道路との対立。
- ⑦パリの古いものは残し新しい物も作る街並み。

等を写真で解説し、参加者の景観に対する想像力を喚起された。



講演の締めには日本景観フォーラムの斉藤理事長が挨拶に立たれ、「今日の講演を聞き少し戸惑っている。本日のお話は景観論より風景論であり、『アートが風景を発見する』のということではないかと受取った。我々の団体は景観フォーラムと言っており、調和だとか建物一つ一つの問題よりも全体のコミュニティーと言う事を謳っている。」と、辛めの講評をされた。

今後も他のNPOとの共催による活動を積極的に推進していきます。

五十嵐太郎氏プロフィール

東北大学大学院工学研究所教授。専攻は建築史。1967年パリ生まれ。東京大学工学部建築学科卒。同大学院修了。博士(工学)。中部大学工学部建築学科助教授等を経て、現職。2010年から、せんだいスクール・オブ・デザイン教員を兼任。あいちトリエンナーレ2013芸術監督。

当NPOではメールマガジンも配信しており、電線地中化に関するコラム・情報を月2回お楽しみいただけます！ぜひこちらにもご登録下さい！→ <http://www.mag2.com/m/0000266000.html>



HPでも最新情報を詳しく掲載！ぜひ、こちらへもアクセスして下さい！
<http://nponpc.net/> フェイスブックは：<http://ww.facebook.com/NPONPC>